



アイ・オー・データ機器

# P2DiPOLE P2DP

## 省スペースでバーチャル 5.1chを実現するスピーカー

価格：2万9800円(実勢価格2万7000円)



### POINT

ディスプレイの上下に置くだけで、5.1chサラウンドが楽しめるスピーカー。バーチャル方式なのにその効果は想像以上に高い。対応5.1chフォーマットはDolbyDigitalのみでDTSには対応していない。DVDプレイヤー、PlayStation2、SoundBlaster Live!搭載のPCなど接続可能な機器は多いので、幅広い活用が期待できる。「SQUARE SOFT 5.1chムービーコレクション」が付属する。

#### 価格

2万9800円(P2DP)  
1万9800円(P2DP/STD、サブウーファと「SQUARE SOFT 5.1chムービーコレクション」を同梱せず)

#### 問い合わせ先

アイ・オー・データ機器 ご購入案内窓口  
☎03-5256-1024/06-4705-5544/076-260-1024

#### S/N比・全高調波歪率(THD)

スピーカー：80dB(出力1W時)/0.1%(出力5W時)  
サブウーファ：70dB(出力5W時)/0.1%(出力5W時)

#### 電源電圧/最大出力

スピーカー：DC12V/10+10W  
サブウーファ：DC12V/12W

#### インタフェース

デジタル入力、光デジタル入力(S/PDIF)、アナログ入力、ステレオミニ入力、ステレオミニ出力×2

#### サイズ

スピーカー：W184×D175×H135mm  
サブウーファ：W190×D193×H272mm

#### コストパフォーマンス



#### 機能性/操作感



#### 総合評価



### 省スペース型5.1chシステム

DolbyDigitalやDTSに代表される5.1chは、

- ・前方左右(2ch)
- ・セリフ専用中央(1ch)
- ・後方左右(2ch)
- ・重低音専用(0.1ch)

という、6個のスピーカーを独立に駆動させて音響空間を構成する本格的なサラウンドサウンドシステムだが、設置環境や住宅事情の問題から6個もスピーカーを設置できないというケースも多い。今回アイ・オー・データ機器より発売された「P2DiPOLE」シリーズは、この5.1ch環境を非常に省スペースかつ低価格に実現することをコンセプトに開発された製品だ。

P2DiPOLEは分類としてはバーチャル方式に属し、今回試用した「P2DP」の場合だと、メインスピーカー1基(左右一体型)とサブウー

ァ1基、合計2基しかない。P2DiPOLEでは5ch分をメインスピーカーで表現し、サブウーファはそのままDolbyDigitalの0.1chの再生を担当するようなシステム構成になっている。

「2chでサラウンドシステム、すなわち聴者を取り囲むような音響空間が実現できるのか」と疑問に思う人も多いだろう。もともと人間の耳は左右(=2ch)しかないため、理論上は左右それぞれの鼓膜を振動させた時点の音波形が、実現したい音響空間内の音波形と同じになっていれば、人間の脳はそう体感してしまうことになる。音源がそこになくてもそこに音源があるかのように感じさせることが可能というわけだ。こうした技術は非常に古くから研究されてきており、DSPの進歩の助けもあって、年々進歩してきている。

P2DiPOLEに適用されているのも、東京電機大学と英国サザンプトン大学の共同研究で開発されたStereoDipole(ステレオダイポール、以下SD)技術と呼ばれる。

### P2DiPOLEの実力は?

SDでは仮想音源処理された音波形を、近接設置した指向性の強いスピーカーから聴者にダイレクトに送り込むのが特徴で、そのため本体が映画『ショートサーキット』のジョニー5みたいな形状になっている。

実際にその音を聴いてみると、その効果は驚くほどだ。セリフはちゃんと中央に定位しているし、前方左右チャンネルは正面から左右45度ほどの位置にあるように聴こえる。後方左右チャンネルはさすがに後ろからは聴こえないが、それでも、真左、真右のやや前よりあたりから聴こえる。見た目以上の臨場感が実現できているのだ。

ただし、聴者の耳にダイレクトに送り込めないと波形が理想的に耳に到達できないため、ディスプレイの上に設置する場合にはやや下向きに、下に設置する場合には上向きに設置する必要がある。ちょっとでもずれるとその効果は半減してしまう。よって動作原理上、P2DiPOLEは家族みんなで楽しむことはできず、いい意味でも悪い意味でも「個人」向けということになるだろう。

前面のLEDインジケータはボリュウムのほか、光るLEDの組み合わせでその時点でのステータスもレポートしてくれるが、分かりにくい。次期モデルではちゃんとしたフロントパネルを設けてほしいと思う。

入力端子は光デジタル入力と通常のアナログ音声の2系統。バーチャル5.1ch機能を働かせるには光入力が必要となり、同軸デジタル入力端子は装備していない。購入前に、PCのサウンドカードのデジタル出力端子がどちらのタイプかを確認しておこう。(西川善司)



背面部。音声入力端子は光デジタルとアナログ音声の2系統。音量調整や音場プログラムの選択は背面スイッチで行うので、操作性はちょっとよくない。また、ヘッドホン出力に対応していないのも残念だ



側面部。スピーカー本体とスタンドはネジで固定し、角度は自由に変えられる